

いつも一箱 富山のペットたち

正月にお餅やおせちを食べ過ぎ、太ってしまったという方はいらっしやらないでしょうか。今回はペットの「糖質制限」についてお話しします。



北島 健司

それでは、ペットフードの「ドライ」と「缶詰」の両タイプは、どちらが太りづらいかについて考えてみましょう。ここで注意していただきたいのは「痩せる」ではなく、「あくまで」「太りづらい」です。

北島動物病院長
(富山市奥田本町)

ペットフード

糖質は血糖値を上昇させます。上昇するとインスリンというホルモンが分泌され、血糖値は下がります。しかし、体内に

脂肪として蓄積

入ったブドウ糖は消えてなくなるわけではありません。エネルギーとして消費されずに余ったブドウ糖は中性脂肪に変換し、体内に脂肪として蓄積します。これを逆手に取って糖質を取らなければどうなるでしょうか。糖新生という代謝が起こります。糖新生をエネルギーへと交換して脂肪をエネルギーへと交換

糖質制限で肥満解消を

し、消費していきます。専門的になりませんが、この時、脳のエネルギーにはブドウ糖ではなく、糖新生の代謝産物である「ケトン体」が使われます。ペットフードの原材料表示をご覧ください。原材料表示は多いものから順に書かれています。ドライは米、小麦などが一番に、缶詰は肉などが一番に書かれています。缶詰は肉などが一番に書かれています。両タイプの糖質含有率は大きく違う



食事中のトイプードル。缶詰タイプにすると糖質制限になり、太りにくい

この子に「余り」はないとお困りの方には、缶詰をお勧めします。その結果、「痩せました」という声を聞かれます。ちなみに、まずは自分の体で試してからというところで、私は半年間の糖質制限で14%の減量に成功しました。

バランス良く

でも、糖質というのは安価、大量に製造するために非常に都合のいいものです。缶詰ばかりにするとコストがかかりますし、ゴミも出ます。どのタイプを食わせるかについてはいろいろなことを考慮した上で、バランスを考えていけばいいでしょう。

先日、ネアンデルタール人の歯石を調べたところ5万年前の

植物のデンプンばかりだった、との報告がありました。これは、歯石は糖質からできていることを示唆しています。そこであれば、缶詰の方が糖質制限となり、歯石予防にも効果があることになりそうです。

原材料

豚肉、鶏肉、鶏レバー、豚レバー、コP、Mg、Na、K、Cl、Zn、Fe、Mn、Cu
トデン酸カルシウム、Be、葉酸、ビオチン
※調達の都合により、原材料を変更

原材料

米、加水分解大豆タンパク(消化率95%)
イル、マリーゴールドエキス(ルテイン遊離)
類(コリン、イノシトール、E、ナイアシム)、酸化防止剤(BHA、没食子酸プロピル)
※調達の都合により、原材料を変更する

ペットフードの原材料表示。ドライタイプ(右)は米などの炭水化物が多く、缶詰(左)は肉などのタンパク質が多い

糖質制限は現在、医学で注目されているように、糖尿病のコントロールにも有効である可能性があります。同じく医学の世界で、総摂取カロリーの75〜80%が脂肪である「ケトン食」が、腫瘍細胞を縮小させるという報告もありますので、ペットの腫瘍にも応用できる日が来るかもしれません。

2013(平成25)年1月3日
北日本新聞

◇ 次回は2月7日に掲載します。